

## 第6回基本問題小委員会（2月15日）への報告について（案）

## 〔1〕 重点目標（案）

分野	重点目標	指標	現状	H24年度	中長期
安全	水害等の災害に強い国土づくり	津波・高潮による災害から一定の水準の安全性が確保されていない地域の面積			
安全	水害等の災害に強い国土づくり	侵食海岸において現状の汀線防護が完了していない割合			
安全	大規模な地震、火災に強い国土づくり	耐震化が不十分な施設に防護されている面積			
環境	良好な自然環境の保全・再生・創出	復元・創出された砂浜の面積			
暮らし	水・緑豊かで美しい都市生活空間等の形成等	人々が海辺に親しむことのできる海岸の延長			

〔2〕 国家戦略として、重点的、緊急に整備すべきものの候補

投資分野	施策名	施策の概要	国家戦略として位置づけられる理由	施策の目標 (可能な限りアウトカム目標とする)
安全	津波・高潮緊急対策	ゼロメートル地帯や地震防災対策強化地域等において、海岸堤防等の新設、耐震化、嵩上げ等を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予算の「ハリ」に相当する事業に関連する施策である。</li> <li>○ 政府の大綱等（東海地震、東南海・南海地震、首都直下地震の地震防災戦略）に位置づけられており、緊急性を有する施策である。</li> </ul>	津波・高潮による災害から一定の水準の安全性が確保されていない地域の面積の縮小

〔3〕 施設横断的な目標・指標の検討

○ 現行社会資本整備重点計画で掲げられている施設横断的な指標

全体の目標 (可能な限り アウトカム目標とする)	施設横断的な指標	連携する各施策の概要
大規模な地震、火災に強い国土づくり等	地震時に防護施設の崩壊による水害が発生する恐れのある地域の面積	・海岸保全施設の耐震化 ・堤防等河川管理施設の耐震化
良好な自然環境の保全・再生・創出	失われた自然の水辺のうち、回復可能な自然の水辺の中で再生した水辺の割合	・渚の創生事業 ・自然再生、多自然型川づくり

○ 基本問題小委員会において、「横断的な目標・指標の考え方（素案）」として提案されている指標

全体の目標 (可能な限り アウトカム目標とする)	施設横断的な指標	連携する各施策の概要
水害等の災害に強い国土づくり	津波・高潮災害から一定の安全性が確保される人口の割合（ソフト対策を含む）	・海岸保全施設の新設整備等 ・ハザードマップ整備、避難計画の策定、情報伝達体制の構築等

【参考】指標に関する主な意見等(第1回中長期的な展望に立った海岸保全検討会)

- ① 現重点計画の評価指標(例えば「津波・高潮による災害から一定の水準の安全性が確保されていない地域の面積」)は大変わかりやすいが、人口密集度によって同じ面積でも同じ効果ではない(人口が多いところはより効果が高い)。
- ② 現在の指標だと社会資本整備が都市に集中しやすいような指標となっている。人口が多い都市だけでなく、小さな漁村や港町が沿岸部に数多くあって、日本の国土を維持してきた。ヒューマンウェア(人材)に注目した指標が出来るとよいと思う。
- ③ 目標の評価と実際の効果は異なる。一つの事業を実施したら3つくらいの効果(例えば災害の防止、地域の振興、環境の保全)があるものもある。